



第2回人権研修会「人生は楽しむためにある！」



令和3年11月10日(水)のよる、第2回人権研修会を開催しました。今回の講師は詩人の「きむ」さんです。「きむ」さんの本名は木村行伸(きむらゆきのぶ)さん。きむさんは、詩人であり写真家であり出版社の経営者であり、4人の子どものよき父親という4つの顔を持っておられます。

当日は、「人生は楽しむためにある！」という大変ポジティブなテーマで、お話いただきました。講話の中で、なぜ出版社を立ち上げたのか、夢を持つことの意味やそこに向けて努力を続けていくことの値打ち、そして「目標」と

「夢」との違いについてお話いただきました。

きむさんは、1980年に福井県小浜市で誕生されました。中学校、高等学校とバスケットに夢中で、高等学校進学を控えた進路相談ではアメリカでバスケット選手になることを願って、第1志望から第3志望まで「アメリカ」と書いて担任の先生を困惑させたそうです。そこまで熱心に取り組んだバスケットボールですが、高校3年生の時にプロへの道はあきらめ、自分の思いを詩で表現することを始められました。きっかけになったのは、高校の先輩からかけられた「努力したことは必ず報われるわけではないが、無駄な努力なんてない」という一言だったそうです。

京都芸術短期大学に入学されたころから本格的に写真を始められ、翌年には詩と写真を組み合わせたポストカードを作って、京都の寺町通りで路上販売を始められたそうです。このポストカードが売れに売れて評判を呼び、在学中から多くのお店におかれるようになりました。自分の作品をいずれかの出版社で本にしてもらおうと思って、3つの出版社に送ったけれどもうまくいかず、それならば自分で出版しようと大学在学中に合資会社「きむカンパニー」を設立されました。

大学を卒業後、夢をテーマにしたプロジェクト「日本ドリームプロジェクト」を発足され、同じ年に社名を「いろは出版株式会社」に変更。同社の代表取締役として、ご自身の作品をまとめて出版されています。また大学時代の仲間と一緒に文具やカバンや似顔絵、雑貨などを幅広く手掛け、自分たちの作ったものから愛や夢、おもしろさを感じ、目の前の人に喜んでもらえるような会社を運営されています。

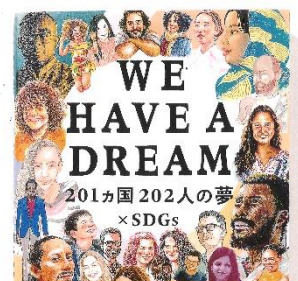
きむさんは、人の想いを大切に、明日がより豊かになるような本を作り、世の中に届ける。そんな思いを胸にこれまで夢の本シリーズをはじめ『1歳から100歳の夢』『寿命図鑑』や『失敗図鑑』など様々な本を生み出してこられました。講演の最後にご紹介いただいた『WE HAVE A DREAM~201カ国202人の夢×SDGs』は「夢や生き方を探している子どもたちに、いろいろな人の夢を読むことで、いろいろな人生があることを知ってもらいたい」

「自分の未来にワクワクしながら、大人になることが楽しみになってもらいたい」という想いがこめられていました。この本を作ることで、アフリカのガーナという国に思いを馳せる時、寄稿してくれたナナさんの顔が思い浮かび、その国がとても身近なものになると話されました。子どもたちの今と未来をつなぐ生きた教材になるそんな力がある本だと感じています。

講演から、「夢」イコール「職業」ではなく、その仕事につくことでどんな生き方がしたいのかが「夢」なんだということを教えていただきました。そして、きむさんの夢は「子どもたちが自分の夢に自由に向かえる世界を作ること」そして、「子どもたちが成長する現場にいる先生たちと一緒に、愛を根っこにして心に学びを届け、子どもたちの生きる力が育つ応援ができれば嬉しい」話されました。子どもたちの人権が守られ大切にされている社会とは何か。そのことを改めて考えさせられた素敵な時間でした。このお話を卒業する6年生に聞かせてあげたいと思います。

夢を通じて「生き方」を学ぶ！

世界中のかっこいい若者の姿に出会える一冊



世界のZ世代、ミレニアル世代の「夢」から僕らは何を学ぶ？

201カ国 202人の夢 ×SDGs

ムハマド・ユヌス、絶賛！

総合 / 道徳 / 国語 / 社会 / 英語 / 理科 / 数学 / 家庭 / 保健体育
探究 / 地理・公民 / 道徳の先生・図書館司書のみなさんへ

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 持続可能な開発目標

サツマイモ掘り・・・(1年生)

10月26日(火)2時間目から3時間目までかけて、学級ごとにいもほりに挑戦しました。5月に植えてから5ヶ月。今年は天候が不順で夏場の生育が今一つでした。それでも9月後半からサツマイモは大きく育ち、葉とつるが生い茂っています。環境ボランティアの方達が葉を刈ってくださり、畑をきれいに整えていただきました。最初に、サツマイモがどんなふうにして育ってきたかを話していただき、移植ごとの使い方を教えてもらいました。畝ごとに分かれていよいよいもほり。想像していた以上に大きなおいもがぞくぞくと採れ、児童は大きな歓声をあげて大喜びです。コロナ禍のため、例年行っているおいもパーティは開けません。環境ボランティアのみなさんへの感謝のお手紙を書く予定です。



草津宿本陣へ出かけよう1 出前授業(4年生)

4年生は社会科で、草津の町について学習しています。草津の町にはたくさん見所があるのですが、その中でも歴史的に有名なのが草津宿本陣です。校外学習で草津宿本陣まで出かけるにあたり、10月26日(火)の2時間目から4時間目にかけて本陣と街道交流館の学芸員の方に学校に来ていただき、本陣とは何かや草津の街の歴史についていろいろと教えていただきました。宿場町として発展してきた草津市。その原点の一つになった本陣の役割や仕組み、歴史的な価値について学ぶことができました。本番の見学に向けて、一人一人がめあてを持つことができましたようです。学芸員の方からは、「聞く態度がとても立派でした。気持ちよくお話しできました」との感想をいただきました。



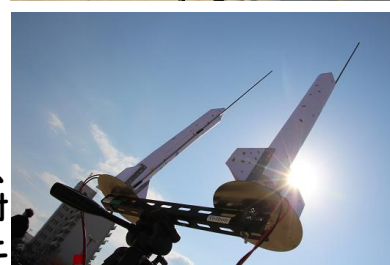
草津宿本陣へ出かけよう2 いざ見学(4年生)

11月2日(火)の1時間目から6時間にかけて、4年生が各クラス2時間ずつ、草津宿本陣と街道交流館の見学に行きました。見学は、感染予防対策のため2グループに分かれ行きました。先日、学芸員さんからお話を聞いていたので、めあてを持って興味深く見学することができました。お殿様が泊まっていたとされる部屋や昔のトイレ、風呂、台所など見所が満載で、みんな興味津々でした。また、街道交流館には、昔の本陣前の通りを再現した模型があったり、当時お殿様が食べていたであろう食事のサンプルがあったりと、当時の様子がよく分かりました。子どもたちはクイズを楽しみながら、草津の歴史について学んでいました。帰りは草津マンポを見学しました。旧草津川は洪水のたびに土手が高くなり、向こう側へ行きにくくなりました。行きやすくするために町の人たちが協力して掘ってできたのが草津マンポです。学校で学んだことを実際に見ることができて、充実した学習ができました。

ロケット体験教室～大空に夢をのせて・・・6年生

11月16日(火)、「コロナ禍に負けずキラッキラの夢を持てるように」という願いを込めてこの事業展開を進められている「くさつ未来プロジェクト(通称KMP)」の協力を得て、6年生がロケット教室に取り組みました。学習の最初に、ロケット教室を全国で展開されている植松電機社長、植松勉さんのビデオを見ました。「どーせ、むり」と言わず、自分の好きなことを追求めることの大切さや「自信を持つ=自分を信じる」ということを、心と体で感じられるようにこの取組を進められていることを学びました。「自分の手でロケットを作り、自分の手で打ち上げる。自分のロケットが飛びパラシュートが開き、落下して来た自分のロケットをキャッチする」活動を通して、できたときのワクワク感を味わえる素敵な取組だということもわかりました。

ビデオ視聴の後、2人1組でロケット製作を開始。説明書を読み、見本のロケットを観察しながら、協力して作業を進めました。制限時間の40分で大体のチームが完成しました。白いロケットに、思い思いのイラストや言葉を書き仕上げます。11時10分に運動場へ出ていよいよ打ち上げです。手作りの発射台に順番にロケットをセットしていただき、発射装置を接続。KMP代表の堀江さんのカウントダウンに合わせて、発射スイッチを押します。初速200kmのスピードで高さ40mまで打ち上げられたロケットは、頂点で本体からパラシュートを出してゆっくりと降りてきます。思っていたよりもはるかに迫力のある打ち上げに、子どもたちも興奮気味でした。最後に先生たちが作成した大型ロケットを全員のカウントダウンで打ち上げて、終了しました。その後、体育館に戻って各々感想をまとめ学習を終了しました。澄み渡る秋空に向かって飛ぶロケットから得られた達成感は、とても大きなものでした。



新しくなった琵琶湖博物館を楽しもう・・・5年生

11月5日(金)、5年生が校外学習としてリニューアルした琵琶湖博物館に行ってきました。「琵琶湖を身近に感じよう」をテーマに、琵琶湖に関する「そうなんだ!」を発見する取組を進めます。見学活動は、班長を中心にグループ単位で館内見学を行いました。新しくなった展示はどれも分かりやすく、カメラ係の人は興味を持ったものをiPadで撮影・記録しました。また、時計係はタイムキーパーとして、あとどのくらいの時間見学できるかを伝えながら計画的に見学を進めました。

製作活動ではシジミの貝殻を使ってストラップを作りました。琵琶湖固有種であるセタシジミのことに教えていただいた後、作業にとりかかりました。貝殻の中に練り消しゴムをつめてとじ、周りをコーティングしました。大きさも模様も人によって全く違うので、世界に一つ、自分だけのストラップになりました。今日、博物館で調べたこと、発見したことは新聞形式にまとめました。1月20日に予定されているフローティングスクールに向けて、琵琶湖のことをたくさん知る事前学習ができました。みんな協力して班活動できていたこと、公共のマナーを守って見学できたこと、とても素晴らしかったです。高学年としての成長を感じました。



秋の学びを彩る取組 草津小ブックフェス・・・全校

図書室前に、お気に入りの本を紹介するポスターがお薦めの本と一緒に展示されています。ポスター作製を呼びかける際に見本として教師も何枚か作ったのですが、子どもたちの作品はそれを上回る質の高いものでした。高学年のポスターは、PowerPointを使って鮮やかな作品に仕上がっていて、とても魅力的です。また、手書きのポスターも、お薦めの本の魅力を伝える巧みな作品紹介がされていて、思わず本に手が伸びます。

ポスターの効果もあって紹介された多くの本が貸し出し中になっていることが写真でも分かります。また、11月9日（火）のはげみタイムには3年生の子どもたちが1年生におすすめの本を紹介していました。「となりのトトロ」や「スイミー」など1年生が喜びそうな本をカードにまとめ、モニターを使って発表していました。発表する姿はとても素晴らしく、発表の仕方も含めて1年生の良いお手本になりました。

読書は子どもの世界を大きく広げる扉です。その楽しみを一人でも多くの子どもの手に感じてほしいと願っています。



手話を学ぶ・・・3年生

11月15日（月）、総合的な学習の時間「すべての人がよりよいくらしをするために」の学習として、手話サークル「おたまじゃくし」さんの6名の方を講師に招き、2時間目は3年2組、3時間目には3年1組と3組が手話について学習しました。

手話を使った自己紹介に続いて、普段の生活に使える基本的な手話や、健康観察で使う「元気ですか」、学習で使う「勉強を始めましょう・終わりました」などの手話を教えていただきました。習った手話を隣同士ペアになって練習をしたり、実際に伝わるかどうかを、代表の児童が前に出て試したりしました。練習の合間には、耳の不自由な方への接し方で気を付けることや上手にコミュニケーションをとるためのコツも教えていただきました。コロナ禍で、みんながマスクをしているために、口の動きを読むことができずに苦労していることもわかりました。

子どもたちは学習の最後に、感謝の気持ちを込めて練習してきた手話の歌「ともだち」を披露しました。歌を聞いた「おたまじゃくし」の皆さんからは、「いつもは教えるだけだけれど、今日の子どもたちは自分で学習してきたことを表現してくれて、とても感動しました」とコメントをいただきました。また、子どもたちの「学びに向かう姿勢」を心から褒めてくださいました。お話を聞く態度、疑問に感じたことを積極的に質問する姿も素晴らしかったです。

夏のパラリンピックを契機に「共生の大切さ」が注目されています。体のハンディを理解し、助け合いながら豊かに暮らしていく力を身に付けてほしいと考えています。

